

## 会議録

会議の名称	西東京市子ども子育て審議会計画専門部会 第3回
開催日時	平成30年12月12日（水曜日）午前10時から11時まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎5階 503会議室
出席者	部会員：谷川部会長、尾崎部会員、菅野部会員、浜名部会員、古川部会員 事務局：子育て支援部長 保谷、子育て支援部参与兼子育て支援課長 飯島、保育課長 遠藤、子育て支援部主幹（保育課） 岡田、児童青少年課長 原島、子ども家庭支援センター長 日下部、西原保育園長 武田、けやき保育園長 笹本、こまどり保育園長 鳴海、子育て支援課長補佐 渡邊、保育課長補佐 海老澤、児童青少年課長補佐 國府方、子育て支援課調整係 栗林、八巻、保育課保育係 古川、子ども家庭支援センター相談係 金谷 欠席：吉野部会員
議題	1 報告 子育て支援ニーズ調査 実施状況 2 議題 ヒアリング調査について 3 その他
会議資料の名称	資料1 ヒアリング調査について
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 報告 子育て支援ニーズ調査 実施状況</p> <p>○谷川部会長： 事務局より報告をお願いします。</p> <p>○事務局： 調査票に説明用の資料を付けて、対象児童の保護者の方に郵送した。具体的には小学校就学前のお子さんの保護者の方に1,500部、小学生のお子さんの保護者の方に1,500部、合計3,000部を、市内の町ごとの年齢層別に無作為に抽出して万遍なく配布した。実施期間は、12月1日に各世帯へ発送し、土日を3回挟んで、12月17日（月）を締切としている。12月11日現在の回収数は879通で、回収率が約30%という状況である。</p> <p>2 議題 ヒアリング調査について</p> <p>○谷川部会長 事務局より説明をお願いします。</p> <p>（事務局から資料1について説明）</p>	

○事務局：

まずサービスの利用者側として、5つの対象を案として挙げている。ニーズ調査票は小学校就学前のお子さんの保護者と小学生のお子さんの保護者には送付しているが、それ以外の方々については行きわたっていない状態であるため、ニーズ調査では把握できていないところに対してヒアリングを実施していくべきと考え、対象を選んだ。

ファミリー学級の利用者は、初めての出産を控えているお母さんお父さんである。ニーズ調査の対象ではないので、ファミリー学級の開催時にヒアリングすることを考えている。同様に中学校PTAも、中学校の保護者はニーズ調査の対象外なので話を聞くことが必要であると考え、対象に入れている。

こどもの発達センターひいらぎや子育て広場の利用者、子育てサークルの参加者はニーズ調査票がわたっている可能性もあるが、加えてヒアリングで得られる意見を施策・計画に反映させていく必要があるのではないかとということで対象にしている。

保育園や幼稚園に通っていない方や、自宅で子育てをしている方々は、子育て広場事業に参加しているのではないかと考えている。家庭での保育において、どのような支援が必要なのかを聞いていく必要があると考え、対象に挙げている。また子育てサークルの参加者には、今後、地域活動や市民活動へ保護者がどのようなかたちで参加ができるのか、という観点を踏まえて聞き取りをしたいと考えている。

ヒアリングの内容については、共通項目として6項目を考えている。

資料の表中「ヒアリング内容案」欄で、各対象に聞く予定の項目を示している。それ以外に、その対象に特別に聞いてみたいものは別途表中に記載してある。二重丸のついている項目は、ニーズ調査の調査項目に関連があるもの、黒丸の項目は、ニーズ調査票にはないものである。

支援者側についても、5つの対象を事務局案として挙げた。

ほっとネット推進員は、ほっとネットステーションの活動に協力する市民ボランティアの方々です。子ども食堂、学習支援団体、子ども放課後カフェは、子どもの居場所や、課題を抱えている子どもたちのケアをしているところである。前回のヒアリング時には対象ではなかったが、今回はヒアリングを実施して意見などを把握したいと考えている。放課後等デイサービスでは、障害のあるお子さんに普段から接している事業実施者へ、利用者の視点からの問題や課題についてヒアリングを行い、施策に反映できればと考えている。

支援者へのヒアリング内容は、5つを共通項目として挙げている。対象によって、全部又は一部の項目についてヒアリングしたいと考えている。

支援者の表中「子どもの年齢」欄は、対象の団体や施設に通ってくる子どもたちの年齢で、子ども放課後カフェは中学校で実施していたため、中学生が対象となっている。

ヒアリングは1月中旬から2月末の期間で、事務局にて対象団体と日程を調整して実施したいと考えている。部会員の皆さんも、是非参加いただきたい。

対象として挙げた10か所すべてに対して限られた期間内でヒアリングをすることは難しい面もある。また、これまで他の計画の策定段階でアンケートやヒアリングを受けている団体は、市からのヒアリングに短期間で複数回対応する状況になるため、対象団体の負担も勘案し、既存の資料も活用していきたいと考える。

現行のワイワイプランを平成25年度に策定する際には、5か所を対象にヒアリングを実施した。西東京市パパクラブは、当時父親の子育てへの参加が審議会の中でも話題となっていたこともあって取り上げられたのだと思う。

本日、対象とヒアリングをする内容について、できるだけ意見を出していただき、決まらなければ後日メールなどで内容を確認させていただきたいと考えている。

○谷川部会長：

まず、保護者を中心とする利用者側へのヒアリングを検討したい。対象としてこのような方々を入れた方がいいというような意見はあるか。事務局案は万遍なくカバーされていて、よく練られているとは思えるが。

中学校のPTAについては、どのようなやり方でヒアリングを行うのか。

○事務局：

中学校の校長が審議会委員にいらっしゃるので、PTAの方を紹介いただくなどの調整ができればと考えている。

○浜名部会員：

子育てサークルはいろいろな団体が活動しているが、ヒアリング先として予定している団体はあるか。

○谷川部会長：

確かに子育てサークルは数が多い。いつも同じ団体に聞くのもよくないし、かといって、すべての団体に聞くのも難しい。

○事務局：

部会員の皆さんから活動団体の情報をいただけると助かる。前回聞いている子育て支援サークルミトンの会は、その後も積極的に活動されているとのことなので、今回もヒアリングできればと考えている。

○谷川部会長：

対象については、事務局案を前提としたい。続いてヒアリングによって把握したいことや内容について見ていきたい。自宅で子育てをしている方々に話を聞くのはとてもよいと考える。なかなか声を上げにくい状況もあるだろうし、自宅で子育てをしていることをどのように感じているのか聞いてみたいと思う。

○尾崎部会員：

不登校のお子さんのサポートをされている団体、あるいは保護者を入れた方がよいのではないか。また、学童クラブの利用者も入れてはどうだろうか。

○事務局：

昨年度、子ども条例の専門部会で、不登校のお子さんへの支援者としてスキップ教室とニコモルムに話を聞いた。不登校のお子さんとその保護者を紹介していただくことは厳しい事情がある。直接対応されているスキップ教室の先生や教育支援課の職員に話を聞いているので、その内容を見ていただき、必要があれば調整して場を設けることはできると考える。本日の会議終了後、関係資料を用意して、部会員の皆さんにはお送りするので、その上で意見等をいただきたい。

○菅野部会員：

ニコモルームは西原総合教育施設で活動していて、冊子などを作って情報発信もしている。話は聞けるのではないだろうか。

○谷川部会長：

不登校のお子さんの親の会などがあれば話を聞くことはできると思うが、聞きにくい状況にあるのは確かだろう。まずはスキップ教室とニコモルームへのヒアリング結果を見ることにしたい。ヒアリングをする時に全方位的に聞くと、何のためのヒアリングなのかわからなくなってしまうこともあるので、基本的には聞きたい項目について聞いていくのがよいと考える。スキップ教室とニコモルームを指導されているのは、退職された校長先生の方々なのか。

○菅野部会員：

スキップ教室は、以前は退職された校長先生が指導されていたと思う。あとは、専門の指導員を雇用されているのではないだろうか。

○谷川部会長：

学童クラブの利用者についてはどうか。

○尾崎部会員：

学童クラブの連絡協議会がある。すべての学童クラブの代表者が集まる定例会が来年1月の第3週の土曜日にあるので、意見を聞く機会として考えられるかもしれない。

○菅野部会員：

学童クラブの利用者はニーズ調査の対象になっているがどうだろうか。

○谷川部会長：

学童クラブは前回もニーズ調査の対象になっていた。さらに丁寧に聞くという面があったのだと思う。

○菅野部会員：

そうであれば、ニーズ調査の対象外となっている子育てサークルの方々の意見をたくさん取り入れた方がいいのではないか。

○谷川部会長：

確かに、学童クラブの利用者に聞くとすると、保育園や幼稚園の利用者はどう考えるのかという意見も出てくることとなる。

○古川部会員：

対象が偏っている印象は否めない。

○浜名部会員：

中学校の保護者はニーズ調査と重なっていないのでよいとして、やはり原則としてニーズ調査と重ならない対象を拾うことにした方がよいのではないだろうか。

○谷川部会長：

ヒアリングというかたちではやらなくても、連絡協議会での声などを出していただくことはできると考えるがいかがだろうか。

○菅野部会員：

結構です。

○谷川部会長：

それでは学童クラブについては、そのようなやり方をお願いすることとしたい。あとは、自宅で子育てをしている方、中学校のPTAの方、学校に通いづらい理由のあるお子さんが来ている団体の支援者の方などに聞いた意見を参考にしたいと考える。さらに、子育てサークルについてはどこに聞くのか。中学校のPTAの場合、一般の保護者の方に聞くのか、役員に聞くのかという細かい点についても考えなければならない。

○菅野部会員：

中学校のPTAが話題に出ているが、高校についてはどうか。

○浜名部会員：

理屈としては確かに高校も入ると思うが、現実的なことを考えると中学校まででいいのではないかと考える。

○谷川部会長：

高校は西東京市の子どもというくくりにはならない。実際に、高校のPTAから西東京市の子育てへの意見をくみ取ることは難しいと思う。

○菅野部会員：

子育てサークルについては、西東京市は広いということもあり、地域ごとに問題が違うように感じている。行政も南部・西部・中部・北東部と分けていることもあるので、地区単位で考えていく必要があるのではないかと。

○古川部会員：

それはいいかもしれない。

○谷川部会長：

ヒアリングの対象を追加するというよりは、今、案で挙がっているところをより丁寧にやってくということになると思う。子育てサークルもいくつかあるので、地域性を考慮して選ぶこともできるだろう。

○事務局：

子育てサークルは、案では利用者側の対象に挙げているが、菅野部会員は、支援者側の方で聞いた方がよいとお考えだろうか。

○菅野部会員：

利用者側と考えている。子育てサークルがどの地域にあるかで状況も活動内容も大きく違うだろう。そのあたりを拾っていけば、いろいろな意見が出てくるのではないか。

○谷川部会長：

活動する地域の特性を踏まえて、利用者の方々へのヒアリングを行うということではないだろうか。サークルの活動内容によって、参加している方々は違うので、おしゃべりが主体のところ、勉強が主体のところなど、バラエティという面も意識していけばよいと思う。

次に、内容についての話になるが、子育てサークルの参加者の方に、「自らが運営者として参加していく意向」を聞く部分がある。聞きたい趣旨は分かるが、サークルに来ていると「いずれは手伝う側に」と思われることに抵抗のある方もいるだろう。ただ参加していてもいいわけなので、そっとしておいてあげてほしいということもある。今の世の中は、なんでもかんでも頑張ることを強要され、そっと子育てをしているだけではいけないのかと感じざるを得ない雰囲気があるように思える。

○古川部会員：

仕事をしていないことに後ろめたさを感じてしまう声が出ているように思う。あまりにも世の中が「働け働け」と言っているから、働かなければいけないのかと考えこんでしまう方が増えてきている。それぞれの価値観で生きているわけなので、もう少し温かく見守ってあげてもいいのではないかと感じている。

○谷川部会長：

幼稚園に子どもを預けて、預かり保育も使わずに迎えに行き、丁寧に子育てをしているのに、何が悪いのかと感じている人もいると思う。ニーズ調査の場合、働くことを前提にしているようなニュアンスを感じる面もあるので、その点についてヒアリングではやさしく聞いてあげてほしいと思う。

障害のあるお子さんのグループについてはどのように考えるか。ひいらぎが対象となっているのでカバーはできているが、特別支援学校なども考えられなくはない。

○事務局：

障害のあるお子さんへの支援団体についてはひいらぎを考えていた。また別の団体があるということであれば追加することはできると思う。

○谷川部会長：

障害のあるお子さんについては、ニーズ調査の内容との関わりが特に強いわけではない。事務局案として挙げられているものを丁寧にやっていくという方向でいいのではないだろうか。ヒアリングを通じて得られた意見については、この部会でフィードバックしていただくようお願いしたい。

支援者については、前回のヒアリングから今日までの間に、いろいろな活動が広がってきていて、新しくヒアリングを行う必要のある団体が出てきていると思う。

ファミリー・サポート・センターの提供会員に聞いてみるのもよいのではないか。

○浜名部会員：

それはよいと思う。事務局案にあるほっとネット推進員は、子育ても一部で関わるものの、あくまで地域全体に対する活動が主である。子育てに特化するのであればファミリー・サポート・センター提供会員の方が関わりが強いと言える。ただし、ヒアリングで地域性を重視するのであれば、ほっとネット推進員は地域別なので適切とも言える。

○谷川部会長：

ファミリー・サポート・センターについては、これまでも部会で話題にあがっている。利用ニーズが変わってきたり、提供会員の高齢化が進み、新しい担い手が不足していて提供会員側も苦しい思いをされているのではないか。ニーズだけでなく、利用者像も変わってきているのではないだろうか。ほっとネット推進員とは別にファミリー・サポート・センターの提供会員にヒアリングをするのであれば、社会福祉協議会に協力していただければ聞きやすいだろう。もし、市の方で他の機会などで意見を聞くことがあんならば、わざわざ入れなくていいと思う。

○事務局：

ファミリー・サポート・センターの提供会員は、やり取りがあるので、聞く場面はある。どのような内容を聞き取るのがよいのかは検討する必要があると考える。

○谷川部会長：

ニーズや利用状況の変化が提供者の話からわかるといいと思う。

○浜名部会員：

ファミリー・サポート・センターの提供会員の方は、自分のお子さんを育てた後にやっていることが多く、長い方はかなり長く続けてこられている。長期間にわたって現場を見ているので、現役の保護者の方々よりも変化や流れについてはよくご存じだと思う。

○谷川部会長：

病児・病後児保育の支援者や協力医療機関はどうか。病児・病後児保育はとにかくニーズを満たすことが大切ではあるが、保護者の就労意識の変化などについても是非とも話を聞いてみたいと思う。

子ども食堂、学習支援団体、子ども放課後カフェ、放課後等デイサービスは、比較的新しいサービスなので現在の話が中心になるのではないか。ヒアリング先をどんどん増やすわけにもいかない。

子ども食堂はいくつかあると思うが、そのネットワークのような組織や取りまとめの会合などはあるのだろうか。

○事務局：

子ども食堂は10団体ほどあり、市が中心となって意見交換会を年間数回ほど開催している。

○谷川部会長：

子ども食堂は、地域によって様子や雰囲気などに違いがあるだろうし、実施回数など、運営面にも違いはあると思う。

○事務局：

万遍なく地域に広がっているので、その会を通じて、意見を聞くということではできると考える。

○尾崎部会員：

学習支援団体は、具体的にどこで活動をしているのか。

○事務局：

事務局で把握しているのはNPO法人猫の足あとという団体で、昨年の子ども条例に関するヒアリングで話を聞きに行っている。中学3年生を対象として受験対策のため勉強を教えたり、夕食の提供を行うなど、子ども食堂のような機能も持っている。有料の塾などに通うことのできないお子さんは無料で学習支援を受けることができる。

○谷川部会長：

以前、ゆめこらぼの事業に関わった際には、NPO法人稲門寺子屋西東京という無料学習塾が活動をしていた。

他にも、放課後等デイサービスについては、かなりの数の団体が活動していると思う。知的障害、発達障害、運動系、学習系などそれぞれの分野に強い団体があり、送迎の有無など対応内容も様々と思われる。可能であれば、一覧を出していただき、同様の活動をしている団体に重複してヒアリングを行わないようにする必要はあると考える。

○谷川部会長：

続いて、質問の項目に戻りたい。保護者への質問の共通項目は①から⑥までであるが、この順番のとおりには聞いていくわけではなく、場合によっては話が膨らまなかったり、あるいはとてもよく話していただけたりすることもあると考えられる。これらの項目以外に聞いた方がいいことなどはないだろうか。

○浜名部会員：

子育てサークルには①から⑥をすべて聞くことになっているが、施設についてどうですか、という質問の仕方になっている。そうすると、どこかの施設を使っている子育てサークルを探すことになる。

○谷川部会長：

確かに子育てサークルの中には、常設ではなく、必要に応じて会議室などを借りたり、公園などで活動している団体もあるだろう。



○事務局：

子育てサークルについては、利用目的やそのサークルを知ったきっかけなどを把握するための設問と考えている。質問文例では施設となっているが、その場所というよりは活動の内容について聞くことを意図している。

○谷川部会長：

次に、支援者への質問の共通項目では、変化について聞いてほしいと思う。子ども食堂については、なかなか届けたい人たちに届かないという問題もあるので、自分たちの活動や仕事からこぼれ落ちてしまう方々のことについても聞いてほしい。そして、支援者のヒアリング対象には、ファミリー・サポート・センターの提供会員は入れてほしい。

○浜名部会員：

ファミリー・サポート・センターの提供会員については、会合や研修の機会に合わせて実施するかたちにすれば可能と考えるので、検討させていただきたい。

○谷川部会長：

よろしくお願ひしたい。次に病児・病後児保育については、事務局で何かのタイミングをとらえて聞いてもらうことは可能だろうか。

○事務局：

現在、施設が2か所あるので、対応が可能かどうか検討させていただきたい。

○谷川部会長：

よろしくお願ひする。話は戻るが、利用者の方々に対して「活躍しなければならない」というようなニュアンスでヒアリングをしないようお願いしたい。また、スキップ教室とニコモルムについては、事務局から既存のヒアリング結果を教えてもらい、質問項目について追加があるようであればメールなどでやりとりをしたいと考える。

○尾崎部会員：

既存のアンケート調査・ヒアリング調査については、具体的にどれを指すのか。また聖ヨゼフホームについては対象にするのか。

○事務局：

既存の資料としては、教育計画、子ども条例、障害福祉計画に関わるヒアリングなどがあると思う。ひいらぎや放課後等デイサービスについても、この資料が使えると考えている。聖ヨゼフホームについては、公表されている第三者評価の利用者アンケートがあり、それを子ども条例の策定の際に参考にしている。施設の取組、そして子どもたちがどう感じているのかを知っていただくための資料とした。

○尾崎部会員：

そのアンケートについては、子ども側の視点で回答されているものなのか。

○事務局：

そのとおりである。

○尾崎部会員：

支援者側としてはどうなのか。

○事務局：

当時の専門部会に聖ヨゼフホームの方に入っていていただき、支援者の観点からの意見をいただいていたと認識している。

○谷川部会長：

児童養護施設はできるだけ地域にも開いていこうとしていて、広場を開放するなどのいろいろな取組をしているので、支援者として見えていることを聞くのはいいと思う。条例の部会で行ったヒアリングは、積極的に活用していくべきと考えるが、子どもの意見については権利擁護の観点などからのもので今回とは趣旨が違うと思う。聖ヨゼフホームに対して、支援者として地域に開いていくというテーマでヒアリングをお願いすることはできるだろうか。

○事務局：

ショートステイの委託も行っているので、可能であると考えます。

○谷川部会長：

是非お願いしたい。ショートステイをどのような方が利用していて、保護者の方々がどのような心配をしているのかなどは知りたいと思う。

事務局の方でヒアリング対象を整理してもらい、いつどこへ行くかなどについては、メールなどで連絡いただくということによいか。

○事務局：

本日の意見や新規にヒアリング対象に加える候補の団体については、これから整理させていただき、対象と調整の上、1月中旬から2月末の期間でヒアリングを実施したい。

すべての対象へのヒアリングが難しい場合は、既存のアンケートやヒアリング結果でカバーさせていただくかたちでよいか確認を取らせていただく。実際にヒアリングに行く対象団体と日程を絞り込んだ段階で、部会員の皆さんにはメールで連絡し、参加可能かどうか出欠を取らせていただきたい。ヒアリング内容と対象については、改めてまとめてお送りすることとしたい。

○谷川部会長：

部会員は現在の計画書を見ていただきたい。「ヒアリングからみる現状」がまとめられているが、意外とあっさりまとめられている。今後のヒアリングでどのような意見が出るのかによるが、しっかりと内容を読み込んでやっていきたいと考える。

### 3 その他

○谷川部会長：

事務局から事務連絡をお願いしたい。

○事務局：

今年度内は、あと1回、専門部会を開催する予定で、ニーズ調査の速報やヒアリング調査の途中経過について報告できればと考えている。次回の専門部会の日程については、確定した段階で連絡をさせていただく。

○谷川部会長

以上で本日の第3回計画専門部会は閉会とする。

閉会